



国際病理アカデミー

日本支部

A NEWS BULLETIN 2007 Number2

Published quarterly
by the Japanese Division
of the International
Academy of Pathology

OFFICERS

PRESIDENT

H.Hashimoto, M.D. (09)

University of Occupational and
Environmental Health

PAST PRESIDENT

T.Morohoshi, M.D. (09)

Showa University

PRESIDENT-ELECT

O.Matsumoto, M.D. (09)

National Defense Medical College

SECRETARY-TREASURER

N.Nemoto, M.D. (09)

Nihon University

COUNCILLORS

T.Manabe, M.D. (07)

Kyoto University

T.Sano, M.D. (07)

Tokushima University

M.Shimizu, M.D. (08)

Saitama Medical School

T.Nojima, M.D. (08)

Kanazawa Medical University

T.Yoshino, M.D. (09)

Okayama University

T.Shiraishi, M.D. (09)

Mie University

COMMITTEE CHAIR

Education, Chair

Z.Naito, M.D. (09)

Nihon Medical School

Finance

H.Iwasaki, M.D. (07)

Fukuoka University

Nomination

T.Morohoshi, M.D. (09)

Course Director, SPU

R.Y.Osamura, M.D. (09)

Tokai University

Surgical Pathology Update (SPU) 2007開催される

SPU2007は6月22日（金）から24日（日）の日程で、葉山の湘南国際村で開催された。Course Directorは例年通りSteven G. Silverberg教授（Maryland大学）と長村義之教授（東海大学）が務めた。はじめにIAP日本支部会長の橋本 洋先生から開会と参加者への挨拶があった。本年のテーマは「GYN and GI Pathology」で、Facultyとして上記2名に加え、Henry D. Appelman教授（Michigan大学）、加藤洋教授（獨協医科大学日光医療センター）、田久保海誉先生（東京都老人医療センター）、清川貴子先生（慈恵医大病理）にお願いした。本年も2泊3日の日程で、9レクチャー、2スライドセミナーおよび参加者からのコンサルテーション症例の解説が行われた。スライドセミナーに関しては、ガラススライド(GYN)と症例を取り込んだDVD(GI)が予め参加者に配布された。参加費（宿泊費、食事代、事前スライド・DVD配布、ハンドアウト代を含む）はIAP会員が45,000円、非会員が55,000円である。今年の参加者は42名（？）でアジア諸国からの参加者4名、Faculty6名、IAP日本支部役員は橋本、松原、長村、内藤、根本が参加した。また、サクラファインテックジャパンからは近藤恵美氏はじめ、多数のスタッフの心のこもったお手伝いを頂きました。

スライドセミナー(GI)症例では多数切片の薄切が困難なことから、組織像をDVDに取り込んだ。なお、この作業については浜松ホトニクスの袴田直俊氏に多大のご尽力を頂きました。レクチャーに関して、Silverberg先生は永年の豊富な経験からの実務的な内容を盛り込んだ、明解なものであった。とりわけ、Sex-cord stromal tumorについては網羅的に解説して頂いた。Appelman先生はGI pathologyにおける第一人者であり、豊富な経験から生まれる明快な説明に加え、数多くのジョークを交えながらの解説は印象的であった。先生は2006年American Society for Clinical PathologyからH.P. Smith Award for Distinguished Pathology Educatorを受賞されている。加藤 洋先生にはGastric cancer and EMRを、田久保海誉先生にはBarrett's esophagus and Barrett's adenocarcinomaを、清川貴子先生にはMetastatic tumors of the ovaryを明快に講義して頂きました。いずれのレクチャーにおいても常に活発な討論がなされ、主催者としては実り多いセミナーであったと改めて感謝する次第です。なお、田久保先生のレクチャーに際しては先生の著書である

Pathology of Esophagus: An Atlas and Textbookが紹介された。

今回のアジアからの参加者は4名で男性2名、女性2名で、以下の通りである。

Dr. Norain Karim (Chief Pathologist,

Hospital Ipoh, Malaysia)

Dr. Tran Minh Thong (Head of

Pathology Department, Cho Ray
Hospital, Vietnam)

Dr. Hua Chi Minh (Lecture of the
Department of Pathology,
University of Medicine and
Pharmacy, Vietnam)

Dr. Budiningish Siregar (Senior
Pathologist, Faculty of Medicine,
University of Indonesia)



J1(submitter:横井豊治先生、discussant: Joung Ho Han先生、moderator: 松原修先生) acute lung injuryを伴うintravascular lymphoma

K1(submitter: Wan-Seop Kim先生、discussant: 林 德真吉先生、moderator: Sang-Ho Cho先生) Myoepithelial carcinoma?

J2 (submitter: 川本雅司先生、discussant: Mee Sook Roh先生、moderator: 中谷行雄先生) Metastatic epithelioid sarcoma

K2 (submitter: Kum-Young Kwon先生、discussant: 藤井丈士先生、moderator: Han Kyeom Kim先生) Synovial sarcoma, biphasic

J3 (submitter: 石川雄一先生、discussant: Seung Yeon Ha先生、moderator: 廣島健三先生) EML4-ALK fusion geneを伴うadenocarcinoma

K3 (submitter: Young-Soo Park先生、discussant: 熊坂利夫先生、moderator: Kyo Young Lee先生) ANCA関連肺病変(Churg Strauss症候群?Wegener肉芽腫症?)+誤嚥性性肺炎



熱心に発表に聞き入る参加者



前列、左より6番目Sang-Ho Cho先生、8番目Kyo Young Lee先生、9番目Han Kyeom Kim先生、10番目 Kun-Young Kwon先生、11番目Young Sook Park先生、右端は川本雅司先生のご母堂(90歳になられる内科医)、後列左端 Geon Kook Lee先生

2007年病理学教育セミナーのお知らせ IAP日本支部主催、日本病理学会後援

日時:平成19年12月8日(土) 9:00~17:30

場所:国立オリンピック記念青少年総合センター

(東京・代々木)

教育シンポジウム 9:00~11:50

今回の教育シンポジウムは、昨年の教育セミナーのアンケート等でご要望が多かった「炎症性皮膚疾患の診断」について、日常の病理診断業務に役立つ内容を清水道生先生に企画していただきました。

主題:炎症性皮膚疾患:臨床医が求める病理診断報告書
モディレーター:清水 道生(埼玉医科大学国際医療センター病理診断科)

1.病理医が知っておかねばならない炎症性皮膚疾患の基礎知識

大原 國章(虎の門病院皮膚科)

2.炎症性皮膚疾患におけるパターン分類:病理報告書の実例を中心に
木村 鉄宣(札幌皮膚病理研究所)

3.病理診断が決めてとなる症例とピットフォール症例

横山 繁生(大分大学医学部腫瘍病態制御講座)

4.病理診断での判定困難症例:病理報告書における対応策

桜井 孝規(埼玉医科大学国際医療センター病理診断科)

5.臨床医が求める病理報告書とは:具体例を中心

石河 晃(慶應義塾大学医学部皮膚科)

スライドセミナー

1時限目 13:15~15:15

*A-1 悪性リンパ腫関連疾患

吉野 正(岡山大学大学院病理・病態学講座)

B-1 皮膚付属器腫瘍

清水 道生(埼玉医科大学国際医療センター病理診断科)

C-1 腎・尿路病変の病理

金城 満(新日鐵八幡記念病院病理部)

D-1 上部消化管の腫瘍性病変

二村 聰(福岡大学医学部病理学講座)

2時限目 15:30~17:30

*A-2 甲状腺腫瘍、新WHO分類を中心として

加藤 良平(山梨大学大学院人体病理学講座)

B-2 軟部腫瘍

橋本 洋(産業医科大学病理学第一講座)

C-2 乳腺疾患の病理

秋山 太(財団法人癌研究会癌研究所病理部)

D-2 非腫瘍性リンパ節病変

小島 勝(群馬県立がんセンター臨床検査病理)

なお、今回は、新規コースのA-1(吉野 正先生;悪性リンパ腫関連疾患)とA-2(加藤良平先生;甲状腺腫瘍、新WHO分類を中心として)が、バーチュアルスライドになりますので、A-1(悪性リンパ腫関連疾患)とA-2(甲状腺腫瘍、新WHO分類を中心として)を含め、各スライドセミナーの応募者全員が、希望のスライドセミナー受講が可能となりました。

国立オリンピック記念青少年総合センターのホームページは
<http://nyc.niye.go.jp/> です。

IAP日本支部 Silverberg病理診断教育賞ならびに 功労賞表彰式および記念祝賀会のご案内

IAP日本支部Silverberg病理診断教育費賞ならびに功労賞の表彰式および記念祝賀会を下記の要領で開催いたします。準備の都合上、参加をご希望の方は予めIAP日本支部事務局へファックス(03-3972-8163)でお申し込み下さい。

記

日時:平成19年12月7日(金) 19:00~21:00

場所:京王プラザホテル43Fスカイバンケット「コメットの間」

〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1 TEL:03-3344-0111(代)

JR・私鉄・地下鉄新宿駅西口より徒歩5分

都営大江戸線都庁前駅B1出口すぐ

会費:10,000円

あとがき

2007年度IAP日本支部の会報第3号と本部のプリティンをお届けします。今回は日韓合同スライドカンファレンスの記事が中心となりました。会報の他、理事選挙関連の資料、投票の葉書、第47回IAP日本支部総会の出欠の葉書、雑誌の購読申込書を同封します。ご確認の上お早めに返信のほどお願い致します。

173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1

日本大学医学部病理学 根本則道/家守玉美

Tel: 03-3972-8111 内線2256/Fax: 03-972-8163

E-mail: iap@med.nihon-u.ac.jp

好評であった。両国それから3症例、合計6症例が提示された。1症例あたりの予定時間は約15分間(まずdiscussantが7分間、submitterが4分間で症例を解析し、free discussionを4分間)とされ、6例(1例が骨腫瘍で5例は軟部腫瘍)とも大変興味あるすばらしい症例であり、Dr. Unniのコメントを含め、活発に討論された。午後のプラン(観光)が緊迫せず、もう少し時間の余裕があればより充実した討論が行われたのではないかと少し残念にも思われた。

(橋本 洋 記)



手前からDong Hoon Kim先生
K.Krishnan Unni先生
小田義直先生
久岡正典先生



第3回日韓腎病理カンファレンスを迎えて 国立病院機構千葉東病院臨床研究センター免疫病理研究部 城謙輔

日韓腎病理カンファレンスは今回で第3回目を迎えることができた。第1回は、2002年4月27日にMoon Ho Yang先生のご尽力によりSeoulで始まった。最初Yang先生から、このような企画のお話があったとき、実は、日本ではこれを受け入れる腎病理医の組織がなかった。あわてて主要なメンバーに声をかけ、赤坂飯店に集まり、Yang先生を囲んでAgendaの原案を練ったことを懐かしく思い出す。日本からは腎病理医13人のメンバーが参加し、根本則道先生にはIAPの代表として参加していただき盛会裏に終えることができた。その後、この日韓腎病理カンファレンスに参加したメンバーをコアとして、日本腎病理協会が設立され、毎年正月明けに自前の研究会を開くようになった。また、WHO腎疾患の病理アトラス(尿細管間質疾患と血管疾患のWHO分類)の翻訳、そして、腎臓学会と病理学会における腎病理の教育活動をみんなで行うようになった。現在、病理医の会員は65名で、メールリストを利用して、絶えず情報交換や問題点の討議を行っている。このようなわけで、日本腎病理協会は、日韓腎病理カンファレンスとともに始まった。

第2回は、2005年11月の沖縄でのIAP(Japanese-Korean Joint Slide Conference of Pathology)に参加するかたちで行われた。Bone and Soft Tissue Pathology, Lung Pathologyのセッションの他に、Renal Pathologyのセッションをいただき、田口尚先生のお世話で10例の症例検討が行われた。日本から16名、韓国から18名が参加した。この合同カンファレンスで、韓国から学んだことはカンファレンスの進行法であった。Submitter(出題者)、Discussant(討論者)、そして、moderator(司会)に役割を分担し、Discussantは、相手側からあらかじめ送られてきた限られた臨床情報と病理写真から疾患ならびに病態を推測して発表する、それをSubmitterが解説し、最終的にModeratorが討論をまとめるという仕組みである。疾患の理解に効果的で、双方の疾患のどちら方の違いが浮き彫りにされ、大いに討論が盛り上がった。今回の第3回は、引き続きIAPのお世話で、韓国Jeju島のリゾートホテルで開かれた。恵まれた環境のもとに、なじみの韓国からの腎病理医と旧交をあたため、また、新しく参加された腎病理医も多く見受けられ韓国腎病理医の層が一層厚くなったようである。この会議の直後に米国腎臓学会があり、両方の参加が難しく残念ながら欠席された先生もいたが日本からは10名が参加できた(重松秀一、田口尚、上田善彦、江原孝史、深澤雄一郎、清水章、小川弥生、藤井晶子、橋口明典、城謙輔)。カンファレンスの進行にも慣れてきて要領よく効果的に会議が進んだ。今回の成果は、症例検討の他に、両国間の腎病理診断の標準化が具体的に始まったことである。Topic Discussionのセッションを儲け、日常の診断で混乱している膜性増殖性糸球体腎炎の鑑別診断を、韓国と日本の双方から発表して、その相違を意識的に見つけ討論する方式をとることで、ある程度の一一致点までこぎつけた。症例検

討では、パラプロテイン血症性腎炎、本態性血小板增多症、門脈全身循環シャント性腎炎、LCAT腎症、そして、日本に特有の家族性アミロイド多発神経炎性腎障害を検討できた。全体の感想では、内容は充実していたが十分な討論の時間がとれず、せっかく両国の腎病理医が集まり、診断の標準化についての問題点を突き詰めるためには、3時間では足りないという意見が多かった。一方、参加者の人数を確保するには症例の演題数も確保しなければならない理由もあり、今後の課題となった。

最後に、今回の韓国側のsecretaryをつとめ、勢力的に尽力していただいたDr. H.J. Jeoung、そして、総合的なまとめを行ったDr.N.H. Wonに感謝申し上げる。Yang先生が残念ながらいらっしゃらなかつたが、贈り物としてJeju島のシンボルのトルハルパン(石のおじいさん)を日本の参加者全員にいただいた。



The 3rd Korean-Japanese Renal Pathology Conference
October 27, 2007 ShineVille Luxury Resort in Jeju, Korea

第2回日韓肺病理Joint Slide Conferenceのご報告

第2回日韓肺病理Joint Slide Conferenceは10月27日(土)午前にShine Ville Luxury Resort別館で行なわれました。別館はこの夏にオープンしたばかりとのことで、文字通り陽光きらめく海を眺望する素晴らしい施設でした。前夜、公式レセプション後、さらに肺病理関係者の歓迎会をもうけていただき、日韓大いに打ち解けたこともあり(橋本洋先生を初め、胸に輝く?肺のロゴマークをつけた臨時肺病理会員も多数加わってください大盛会となりました)、カンファレンスは真剣な中にも終始リラックスした雰囲気で行なわれました。参加者は日本側がJPPS(Japanese Pulmonary Pathology Society)関係者を中心に15名、韓国側がIAP韓国支部長、Sang-Ho Cho先生、KCPSG(Korean Cardiopulmonary Pathology Study Group)会長、Kyo-Young Lee先生をはじめとする19名の参加でした。症例は日本側3題、韓国側3題で各症例をdiscussant、submitter各10分、discussion5分の計25分の持ち時間で行ないました。今回、初めて事前のスライドグラス配布の代りにvirtual slideを用いました(当初はDVDの配布予定でしたが韓国側がwebsiteにuploadしてくれて大いに助かりました)。症例は腫瘍5例、炎症性病変1例で、詳細は割愛しますが下記のごとくいずれも示唆に富み、またcontroversialなところもありの疾患でdiscussionにも熱が入りました。総じて、韓国側の診断能力の高さに感心させられたのは私だけではないと思います。Websiteにdiscussion部分のPower Point fileもuploadされる予定です。残念ながら今回参加できなかつた先生方も是非ご覧いただきたいと思います。

2回の肺病理カンファレンスの日本側事務局を担当させていただきましたが、確実に日韓肺病理医の友好と協力関係が進んでいることを肌で感じることができ、そのことが何よりも嬉しく思われます。極めて多忙の中にあることは重々承知していますが、2年後の日本でのカンファレンスでは、是非さらに多くの日本の先生方に参加していただき友好の輪が広がればと思います。今回の肺病理カンファレンスでは素晴らしい会場施設はもちろんのこと、韓国側の先生方には心のこもった歓迎と肺病理医の顔写真入りリスト配布、肺病理関係者用の肺ロゴマークシールの配布など、実際に行き届いた配慮をしていただきました。KCPSG関係者一同、特に事務局の中心となり大変お世話くださつたNational Cancer CenterのGeon Kook Lee先生に、紙面をお借りして心からの御礼を申しあげます。

(中谷行雄 記)

Scientific sessionの後は、大勢でHalf Day Tourにバスで出かけた。Jeju島の東海岸で海鮮チゲのお昼ご飯を食べ、城山日出峰Songsam-ilch'ulbongという城山浦の青い海の上にそり立つ高さ182mの噴火口と崖をみて、城邑民族村Song-up Fold Villageへ行き萱葺き屋根の古い家、城壁跡、臼、トルハルパンなどを見物した。日本語の堪能なガイドさんの楽しい会話に驚きました。トルハルパンとは石のおじさんといった意味だそうだが、飛び出した目、団子鼻、突き出たお腹と面白い像である。Jeju島の守護神といったところだろうか。その後はサングムブリSankumburiという火山の噴火口の跡の雄大な景色を眺めた。広大なススキの原野も素晴らしいものだった。帰るとホテルでFarewell Partyが開催された。途中、韓国の先生方は飛行機の便に間に合うように帰られたが、会長のCho先生とSecretaryのPark先生は最後まで付き合つてくださいった。ここでも洋韓折衷のコース料理のご馳走をいただいた。

いずれにしろ、10回の節目に、若手も増え、これまで以上に自由な雰囲気で交流が盛り上がった印象である。これを契機に11回以降さらに友好関係が深まることを期待している。韓国側の首脳部とも話し合い、飛行機の便のよいところということで、名古屋と神戸が候補に挙がり、第11回は日本で2009年に“名古屋”で開催予定の線で進めようとの話になった。藤田保健衛生大学の黒田 誠教授にお世話をいたこうとの話まで進んだ。今から大いに楽しみにしている。

今回の日本側の参加者は46名(?)と聞きました。これに奥様方の随伴者が加わるので、50名を超えるでしょう。韓国側が60名近くと。ご出席の皆様、大変ご苦労様でございました。

症例と座長、出題者、討論者、診断名のリストを掲載します。

(長村義之、松原 修 記)



交歓会のスナップ



The List of Cases and Participants

The 10 th, Korean-Japanese Joint Slide Conference of IAP

M: moderator, S: submitter (6 min), D: discussant (6 min.), Discussion: (3 min.)

Age/Sex Organ, Site, Contributors, and Diagnoses of Discussants and Submitters

2:40-2:55 PM

K-2 65/F Brain, Rt temporal lobe

M: An Hi Lee Catholic University

S: Hyoun Joo LEE, Korea University

D: Toshiharu MATSUMOTO, Juntendo University

D: Metastatic urothelial carcinoma in brain

S: Malignant glomus tumor of the stomach with metastases to the kidney and brain.

2:55-3:10 PM

J-1 60/F Liver

M: Robert Y. OSAMURA, Tokai University

S: Hayato SANEFUJI, Kitakyushu General Hospital

D: Hye Rim PARK, Hallym University

D: Leiomyosarcoma, myxoid variant

S: Primary GIST of the liver

3:10 -3:25 PM

K-1 15/M Left kidney

M: Chul Woo KIM, Seoul National University

S: Geung Hwan AHN, Samsung Medical center

D: Tomayoshi Hayashi, Nagasaki University

D: Metanephric adenoma

S: Wilms^t tumor, epithelial type (with LN metastases)

3:25 -3:40 PM

J-2 62/F Esophagus

M: Yo KATO, Dokkyo Medical University

S: Takuo HAYASHI, Juntendo University Hospital

D: Sung-Hye PARK, Seoul National University

D: Primary malignant melanoma of esophagus with melanosis of adjacent mucosa

S: Primary Malignant melanoma with a cellular spindle-cell component

3:40-4:00 PM Coffee break

4:00-4:15 PM

K-3 54/F Soft tissue, Lt hip

M: Han Kyoom KIM, Korea University

S: Byoung Kwon KJM, Seoul National University

D: Yoshinao ODA, Kyushu University

D: Pleomorphic hyalinizing angiectatic tumor of soft parts (PHAT)

S: Ewing family tumor, spindle cell sarcoma-like variant

4:15-4:30PM

J-3 18/F Ampulla of Vater

M: Toshio MOROHOSHI, Showa University

S: Takuma TAJIRI, Showa University & National Cancer Center Hospital

D: So Young JTN, Soonchunhyang University

D: Papillary adenocarcinoma

S: Invasive micropapillary adenocarcinoma with PanIN2

4:30-4:45 PM

K-4 55/M Brain, Rt temporal Robe

M: Sang Ho Cho, Pocheon Cha University

S: Hye Sook MM, Korea National Cancer Center

D: Toshiharu MATSUMOTO, Juntendo University

D: Diffuse astrocytoma, 「(admixed with protoplasmic, fibrillary and gemistocytic astrocytes) with neuropil-like islands

S: Glioneuronal tumor with neuropil-like island (Rosette glioneuronal tumor), WHO grade III

4:45-5:00 PM

J-4 44/F Retroperitoneum

M: Hiroshi HASHIMOTO, University of Occupational and Environmental Health

P: Masanori HISAKO, University of Occupational and Environmental Health

D: Chan CHOI, Cheon Nam University

D: PEComa, uncertain malignant potential

S: Epithelioid angiomyolipoma, sclerosing variant (syn. Sclerosing perivascular epithelioid cell tumor, "PEComa")

The 7th Korean-Japanese Joint Slide Conference of the Bone and Soft Tissue Pathologyの報告

第40回Bone Tumor Clubを第7回日韓合同スライドカンファレンスとして、韓国のJeju島でのThe 10th Korean-Japanese Joint Slide Conference of the IAPに因んで、平成19年10月27日(午前)に開催された(写真1、2)。韓国側会長 Anhi Lee教授(Catholic University Our Lady of Mercy Hospital)と日本側会長 恒吉正澄教授(九州大学)の挨拶に続いて、韓国側世話人 Dr. Dong Hoon Kim (Kangbuk Samsung Hospital)と日本側世話人 菊地文史先生(NTT関東病院)により両国の参加者(韓国13名、日本14名)が紹介された。症例検討に先立ち、Yong-Koo Park教授(Kyung Hee University)の推薦で招待された米国Mayo Clinic教授 K. Krishnan Unni先生が“What is the new disease entity in bone pathology” and “Common errors in diagnosis of chondroid lesion” の演題でいつもながらのわかり易い明快な講演をされ、